

[www.benettongroup.com/apes](http://www.benettongroup.com/apes)

## 『ジェームズと類人猿たち』

### ベネトンのコミュニケーション・キャンペーン

#### 書籍を出版及び 2005 年にロンドン自然史博物館で展覧会を開催

2004 年 10 月 7 日、ロンドン。アーロン(11 ヶ月、オス)は、カメルーン生まれ。フィッツイー(2 歳、メス)はコンゴ出身。ポニー(5 歳、オス)はインドネシアから。シャンガ(2 歳、メス)は、ドイツで監禁状態の中生まれました。彼らは、プンブーやタタンゴ、ジャクソン、ジェームズ、その他多くの孤児たちと同じように暴力と痛みを経験しています。しかし、彼らの目は、それぞれの苦悩の物語を語り、個性を表しています。彼らは、ゴリラ、チンパンジー、オランウータン、ピグミー・チンパンジーなどの霊長類。ファブリカのジェームズ・モリソンによる、ユナイテッド・カラーズ・オブ・ベネトンの新しいコミュニケーション・プロジェクトの主人公です。同じ惑星に住み、96%以上我々と同じ DNA を持つ彼らと至近距離で“向き合い”ます。

ジェームズ・モリソンがクローズ・アップ写真を撮影した“孤児”たちは、不法取引業者から押収され、アフリカやアジアの少なくとも 7 ヶ所の保護区域で生活しています。彼らの多くは、目の前で母親を殺されています。名前と生い立ちが添えられた写真は、様々な類人猿を救うことの重要性を示しています。たった 1 種が絶滅しただけでも、人類の祖先をさかのぼるための“架け橋”の重大な部分を失ってしまうからです。

「私たちが救う手立てを施さないでいたら、10 年ないしは 15 年後には、類人猿は、今生息している大半の地域から姿を消してしまうでしょう」と、高名な霊長類学者で、自然保護論者、国連平和大使でもあるジェーン・グドールは言います。彼女はベネトンのコミュニケーション・キャンペーンを支援しています。「100 年前、アフリカには約 200 万頭のチンパンジーがいましたが、今ではわずか 15 万頭あまりです。彼らは、人口増、森林伐採、チンパンジーの生息場所の破壊、乱獲などによって絶滅しようとしています。マウンテン・ゴリラやオランウータンが置かれた状況は更に悲惨です。野生の類人猿の数は減り続けているのに、保護区域の動物孤児の数は増えているのです。」

ベネトンは、この企業キャンペーンによって、地球の財産である多様性に対する思いを、人類だけでなく、我々の近縁関係にまで拡大することにしたのです。ジェームズ・モリソンが撮影したポートレートは、進化の過程において私たちに最も近い種のまなざしを通して、人類学上の本質的な問題について考えるよう私たちを促します。

プロジェクトの全貌は、ジェーン・グドール博士の出席のもと、本日自然史博物館で発表されます。キャンペーンは、2004 年 10 月 15 日から世界の主要都市のビルボードに掲げられるほか、書籍『James and Other Apes / ジェームズと類人猿たち』がイギリスの出版社 Boot から出版され、2005 年 5 月より 9 月までジェームズ・モリソンの写真展が、自然史博物館で開催されます。

高解像度の画像は下記まで:

[Image Gallery – Benetton Institutional Campaigns – James and Other Apes](#)